

令和3年度8月定例教育委員会議事録

【日時】

令和3年8月26日(木)

開会 午後1時25分

閉会 午後3時55分

【会場】

辰野町民会館 104 学習室

【出席者】

8名

(辰野町教育委員会)

教育長	宮澤 和徳
教育長代理	根橋 久人
教育委員	垣内 由佳
教育委員	関 政彦
教育委員	萩原 多恵子

(事務局関係)

こども課長	小澤 靖一
こども課長補佐	
兼学校教育係長	桑原 さゆり
学校教育係	向山 倅生

【傍聴者】

0名

【次第】

1 議事

(1) **【非公開】** 準要保護の認定について

2 協議

(1) **【非公開】** 学校・保育園の様子及び運営上の諸課題

(2) **【非公開】** 川島小学校の今後のあり方についての協議

(3) 小中学校の夏休みの反省

(4) 今後の教育課程および集団・宿泊的行事等

(5) 夏休み中の学校関係工事の進捗状況

○開会

1 開会の言葉

<宮澤教育長>

ただいまから8月の定例教育委員会を開催させていただきます。

2 会期の決定

<宮澤教育長>

本日1日限りとしたいがよろしいでしょうか。

・異議なし

3 議事録の承認

<宮澤教育長>

7月の定例教育委員会の議事録と8月の臨時教育委員会の議事録についてご異議はありませんか。

異議なしと認め、後ほど署名をお願いします。

4 宮澤教育長挨拶

今日は久しぶりに残暑が戻ってきた感じがします。

梅雨が明けて盛夏、一転して連日の猛暑が続いておりましたが、今年の夏休み、特にお盆期間中は、前線停滞による大雨で、辰野町内も大きな被害が発生しました。また、発生場所は岡谷川岸でございましたけれど、児童生徒を含め、3名の尊い命が奪われました。やりたいことがまだたくさんあったはずです。無念ではありません。残された家族も悔しい、切ない、という思いでいっぱいなのだろうと思います。お父さんと中学3年生の長男の子には、1日も早く、前を向いて歩み出してほしいと願っています。今回の児童生徒の土砂災害死亡に関わって、8月18日に臨時の町校長会を開催させていただきました。2学期の迎え方、それから始業式での校長講話で「今、生きていること」が実感できる話をするように伝えました。

この大雨により、児童生徒の通学路の心配や、JR飯田線の不通による課題もありましたけれど、学校や関係機関の迅速な対応により、2学期を無事に迎えることができました。羽北地区の中学生も、「徒歩で通学することを覚悟していた」という生徒が何人もいたということで、20日に笑顔でバスに乗り込む姿を見て、初日に間に合っただけよかったという思いでいっぱいでございます。

さて、川島小学校の件は、川島区長とも話をし、8月下旬には教育委員会と町で保護者との懇談の場を持つと確認していたわけですが、今回の災害ですべて飛んでしまい、9月に先送りせざるを得なくなりました。申し訳ありません。

今日の教育委員会では、3年前のあり方検討委員会の提言、それを受けての教育委員会の見解を再確認したいと思っております。

私自身、この大雨災害でコロナ禍がすっかり飛んでいましたが、上伊那を含め、長野県も大変厳しい状況になっています。10代や10代以下の子どもも普通に感染するようになりました。辰野町でも、子どもの感染者が出ないとも限りませんので、その対応をしていかなければなりません。教育委員の皆さんにはまたお知恵をお借りしたいと思います。

それでは、8月の定例教育委員会をよろしく申し上げます。

5 議事

(1) 【非公開】 準要保護の認定について

- ・桑原こども課長補佐より説明。
- 異議なし、2名認定。

6 協議

(1) 【非公開】 学校・保育園の様子及び運営上の諸課題

- ・宮澤教育長より説明。

(2) 【非公開】 川島小学校の今後のあり方についての協議

<宮澤教育長>

川島小学校について焦点を当てて、協議をお願いしたい。

資料として、平成29年の9月26日に辰野町立小中学校あり方検討委員会から町教育委員会に出された提言書、平成30年の2月21日の町教育委員会から出した見解の2つの資料を提示。

資料説明

- ①10回開催された検討委員会の主な検討内容
- ②教育委員会から委託された検討事項について
- ③委託された検討事項に対する提言について
- ④提言に対する教育委員会見解について

< A委員 >

・3年経って実情に合わないという感覚があるとすれば、3年前の提言よりさらに事態は進んでいるのではないか。

< B委員 >

・町長のチャレンジ期間の反応から見ても見解通り進めて行くことが良い。偏った表現ではない。

<宮澤教育長>

・提言内容には、「町立」という言葉を敢えて使っている。人数が多い、少ないはあるが、公立校を意識しての学校のあり方を考えていく。

<小澤こども課長>

・教育委員会は、提言の10人という基準に照らしているので、「今後子どもが増える」と言っている人もいるが違う。状況はさらに進んでいて恒常的に増えていくことはない。

<宮澤教育長>

・二人増えても「二人増えた」ではなく、20%増えたと言う。移住定住で家を借りたり建てたりして来る人は分かるが、「川島小が良いから」と小学校時代だけ在籍して、卒業したら出て行く人もいたが、この点はどう考えるか。

<C委員>

・3年間、外に出てしまうので逆に外から呼ぶことを町づくりとしてやってきた結果が今日である。提言4の「経費の公平性を大きく損なわないように」と謳われている。他校の保護者が見たらどう思うか。

<宮澤教育長>

・特に西小の保護者からは異論が出るか、教育委員会としてはあまり公にはしたくない。

<D委員>

・3年間のチャレンジがなければ、その間の税金は他に回すことができたと仮定すると変なものになってしまうが、そこまでやっても難しかったということだろう。

<桑原こども課長補佐>

・空調整備の際、多額の財政措置をする必要があるかという思いもあった。スクールバスに乗ったが、川島地区の子どもがもし乗れたらどんなに親御さんの負担軽減になるだろうかと思った。

<E委員>

・ねじれという問題は大変大きい。

<F委員>

・表向きはないが、水面下ではそう言っている人もいる。

<宮澤教育長>

・特認校で来る子は、バスに乗ることができる。

<G委員>

・川島から他の学校に通わせている保護者は若干の負い目も持っているかもしれない。

<H委員>

・西小に通っているご家庭は、「地元には学校があるのに何で行かないんだ」と言われることもあるのだろう。早く解消させてあげたい。

<宮澤教育長>

・説明会の折、終了後あるお父さんは、「もう川島小のことを議論している場合ではないでしょう。町全体の学校をどうするか議論が必要。」と話された。確かにそうである。

< I 委員 >

・車で 10 分か 15 分で他の学校に行くことができる。下伊那の上村の小学校とは明らかに違う。

<宮澤教育長>

・新山小、伊那西小も人数が大きく異なる。長谷小も同様。町長はこの説明会で、「川島小は極小規模」という言葉を初めて使った。

< J 委員 >

・子どもを持つ親が言うのではなく、子どもも孫もない方が「残せ」と言う。これはおかしいような気がする。一方で「大勢の中で学ばせたい」親もいる。

<宮澤教育長>

・説明会では、「そば作りを教えたいので残してくれ」と言った方もいた。

<小澤こども課長>

・「私の卒業した学校だから残してくれ」と言った方もいた。

< K 委員 >

・子どもではなく、私なんです。

< L 委員 >

・みんな、残してくれという気持ちはあるし、分かる。

<宮澤教育長>

・「子どもの声を聴いて」という意見がある。テープも聴いた。「良い学校だから残してほしい」「川島小を潰さないでほしい」と悲痛な叫び、本当に子どもの声かと思った。不自然な感じもした。言わされている感じも受けた。皆さんはどう感じましたか。

< M 委員 >

・私もビデオを見た。子どもがかawaiiそうに思えた。

< N 委員 >

・保護者が、「学校がなくなると困るよね」「どうする」と言って持っていくと、子どもはそうになってしまう。子どもは素直である。

< O 委員 >

・子どもは親の心理をよく読んでいるので、言わなきゃとなってしまう。本当の気持ちはどこに。

< P 委員 >

・学校が楽しいと思っている子どもの正直な気持ちだと思う。なくさないでという気持ちも同じだと思う。今の川島小が本当に楽しいんだと思う。

<宮澤教育長>

・そこは教育委員会や先生方が頑張っているから。子どもはその学校しか経験していない。説明会の時、ある方より、「僕は、本当は大きな学校に行きたかった。でも親が川島、川島って言うから言えなかった。」「中学校を卒業した時、初めてボソッとやった」という例を話してくれた。まさに自分の気持ちを押し返して親の思いを受け止めている子もいる。

<Q委員>

・川島に通っている子の友だちから、「私、本当は〇ちゃんと一緒に学校へ行きたかった」と言われたらどうかな。みんな同じ保育園に行っているのに。

<R委員>

・特認校で最初に入った子はもう中学生だね。

<S委員>

・中2。

<T委員>

・どんな感じでしょうか。

<宮澤教育長>

・休まず通っている。

<U委員>

・川島小の先生方は一生懸命だと言った人がいた。確かに先生方は頑張っている。先生たちも、「川島小の子どもたちが好き」と言ってくれる。地域の方にも好かれるような対応をしてくれている。

<宮澤教育長>

・先生の力は本当に大きい。しかし、先生が川島小に在籍すればするほど、他の学校に異動したとき厳しい面もある。先生方にとっては、川島小はある意味厳しいかもしれない。

<V委員>

・児童にも言えることかもしれない。

<宮澤教育長>

・仮に統合を進めるには、前もって他校との関わりをうんとやらなければならない。西小や東小、南小ともやっていく。最初はオンラインでもよい。川島もよいが、こういう学校もあるんだということを学ばせてやりたい。

<W委員>

・以前の川島小の考えからすれば、南小や西、東小とオンラインでの交流は逆行するとしていた。今後は積極的に進めて行く必要がある。

<宮澤教育長>

・以前は敢えて少人数を選んだから、という考えがあった。

< X委員 >

・ Yから来た子は、少人数だから来たのではないと言っていた。たまたま近いからであり、東でも西でもよかったとしている。

< 宮澤教育長 >

・ 特に整理はしません。まだあれば言ってください。

< Z委員 >

・ 8月末に予定されていた懇談会はどんな話をする予定だったのか。

< 宮澤教育長 >

・ 今度は町長も参加する。教育委員さんも参加いただく。6月から2カ月経っているのので、その後の思いを聴きたい。6月は、まだ町長が表明する前の段階、今回は表明後となる。

< a委員 >

・ とりあえず聞くということですね。

< 宮澤教育長 >

・ 町長が表明し、6月と状況が変わってきている。6月は課長、補佐と行ったがまだ「統合やむなし」との結論前だったから、言えば何とかという思いがあった。保護者の意見も様々だと思う。そこを改めて聞くことができればと思う。

< b委員 >

・ 川島にいると情報が少ないかもしれない。

< 宮澤教育長 >

・ 子育て中のお母さんどうしや近隣所と会話している雰囲気はどうだろうか。

< c委員 >

・ 他のお母さんにも相談できない方もいるのかな。その辺の思いも何か酌めるようになればと思う。

< 宮澤教育長 >

・ 教育長だけでなく教育委員と話をすることで、目に見える形でなくても気持ちが少しでも変われば。

< 小澤こども課長 >

・ 初めての懇談会では、保護者は、対教育委員会という感情で入ってきた。教育長の教育方針なり、考えを聴いて、「教育委員会は本当にそういうことを考えているんですね」と変化し、最初のイメージと変わってきた。対教育委員会、対教育委員会という感情だけだったかもしれない。

< 宮澤教育長 >

・ 「教育長は冷たい人っと思っていたでしょう」と聞いたら、何人かは頷いていた。

< d委員 >

・ 保護者の中にもいろいろな考えがある。とにかく残せ、と。一方で、子どもたちの

受け皿になってくれているという感覚もある。家庭によって随分違う。

<宮澤教育長>

・概ね1時間経った。様々な意見を聴くことができてよかった。ありがとうございました。

(3) 小中学校の夏休みの反省

・宮澤教育長より説明。

学校から報告された夏休み中の児童生徒の様子を確認。

(全教育委員、質問・意見なし)

(4) 今後の教育課程および集団・宿泊的行事等

・宮澤教育長より説明。

町内小中学校の2学期の教育課程を確認。

新型コロナウイルス感染症に関わる家庭通知の内容を確認。

<教育委員>

5月の時に、習い事などの自粛依頼の通知が出たかと思いますが、今回の通知にはそういった文言がなかった。習い事についてはどうすればよいのかという質問が保護者の方からありました。

<宮澤教育長>

実は習い事の方が心配している。習い事はいろいろな学校の子どもや町外の子どもも集まります。学校における部活や課外活動、小学校の金管バンドや合唱は、その学校の子どもたちだけですので、習い事よりもまだ安全。

部活動だけでなく、課外活動・クラブという文言も入れていきますで、そこを理解していただければ、習い事も気を付けた方がよいというようになってくるかと思います。

(5) 夏休み中の学校関係工事の進捗状況

・桑原こども課長補佐より説明。

夏休み中に予定していた工事は全て終了したことを確認。

(全教育委員、質問・意見なし)

8 閉会